

大正五年四月第十九師団の主力を編成し之を会寧、羅南、咸興に配置し駐劄中の第九師団を日本に復歸せしめ次で第二十師団の編成に着手せり

第四節 朝鮮軍司令部

一、改稱

第十九師団編成完成と駐劄部隊の日本復歸に伴ひ駐劄軍司令部の稱呼を改むる必要を認め大正七年五月二十九日朝鮮軍司令部と改稱せり

三、ヶ師団の完成

第十九師団は大正五年五月より大正八年二月に^{（回）}完成し師団司令部を羅南に歩兵聯隊を会寧、羅南、咸興に置き歩兵聯隊の一部を夫々個滿江岸、慶興、新阿山、慶源、訓戎、隱城、上三峯、茂山、三長、惠山、鎮新

0014

芑坡鎮に分派して國境守備に任せしめ工兵聯隊を會寧に騎兵砲兵
西聯隊を羅南に配置せり

第二十師団は大正八年より大正十年四月に亘りて完成し師団司令部
と歩兵二聯隊、騎兵、砲兵、工兵各一聯隊を京城龍山に、歩兵聯隊を平
壤と大邱に置き大邱聯隊の一大隊を大田に常置せり又別に各歩兵
聯隊より一部を夫々鴨綠江岸鮮滿國境の都邑新義州、義州、清城
鎮、昌城、碧洞、楚山、渭原、江界、滿浦鎮、慈城、中江鎮、厚昌に配置し
て國境を守備せしめたり

(註)之等守備隊要員は西師団に高定員として増加せられたるものなり。
滿洲國建設後は朝内より滿洲匪賊の討伐に協力したること一再
なうざりしが滿洲國の治安逐年改善せらるるに及び昭和十二年
之等を集結して琿春守備隊となし國境守備隊は慶興、新義
州を除く外皆無となれり)

三要塞

元山北方永興灣に永興灣要塞を、慶尚南道鎮海灣に鎮海灣要塞を、
置きて夫々永興灣船地及び鎮海海軍要港を守備し軍司令官は之
を直轄せり

四、武断統治より文治へ。憲兵警察分離

第一次歐洲大戰に於て日本は青島及び西伯利亞に出兵し内に産業
興隆して大戰景氣を醸成したるか朝鮮に於ても總督の善政漸く
現はれ産業經濟の發達著しく一般の思想亦概ね平靜なりき然れど
も鮮内には武断政治の命弊逐次蘊釀し特に憲兵警察政治就中
末端に於ける憲兵警察官の重圧と個人的の行動は國の余威を藉り
て目に余るものあり新附無智の韓民の信望を失うものありたり
会々大正八年李大王薨去し其の國葬日に宮室たる京城德壽宮門
前に集合したる民衆は萬歳を絶叫したる事件は民心の響響應す

0016

るところ全朝鮮に汎延し憲兵警察官の襲撃を蒙り被害續出
せり

萬歳事件は間もなく鎮圧せられたりと雖も日本朝野を挙げて文
治思想の影響と朝鮮民衆の反武断政治運動は根柢深きものあ
り別に歐洲大戰後米國大統領「ウイルソン」の提唱したる民族自
決論は朝鮮人に新なる希望を与へ韓國の自主独立を予約せられ
たるか如き錯覚を抱くに至れり 会々京城駅頭に於ける総督齋藤
實に投じたる爆彈事件を轉機とし日本政府は武断政治を文化政
策に変更せり

之か爲朝鮮軍關係に於ては次の如き変革を見たり

一、朝鮮總督に与へられたる陸海軍統率權を廢して之を天皇に復

返す總督には出兵要求權を附与せらる

二、憲兵隊司令官が總督府警務總長を兼務することを廢し憲

警を分離す

3. 憲兵隊司令官は軍事警察に就ては軍司令官の指揮を承け司

法警察に就ては朝鮮総督の指揮を受く

4. 一萬八千名の憲兵を一千数百名に減少し各地に分駐したる憲兵

を廃し市民保護は一に警察官の担任するところとす

五、間島省派兵

曰韓合併に不平の朝鮮人中満洲に逃亡したるものは米國、中華に亡命したるものと一脈相通じ間島省、吉林省、通化省等鮮滿國境の山村森林中を根據とし或は韓國假政府を組織するものあり或は光復軍を育成強化するものあり之か爲鮮滿の國境の匪情は逐年不隱を加へたるが大正九年十月一日間島省琿春にある日本領事館が暴徒の爲に焼打せられ局子街、頭道溝、百草溝の分館亦危殆に瀕し在留日本人の生命財産亦危機に曝されたる事

件発生せり朝鮮軍司令官は第十九師団(長中將高島友武)より磯林(直明少將)、東(正彦少將)の指揮する混成部隊及び木村支隊を間島省琿春縣局子街及び龍井村に派遣して暴徒の討伐に当らしめ治安速に恢復後十二月兵力の大部を翌大正十年三月全兵力を引揚げ龍井村及び琿春に軍連絡班を置くことせり(註昭和十三年連絡班を撤收せり)

大滿洲在留邦人援護

大正十二年九月一日日本関東地方震火災に於て一部の朝鮮人が日本市民に虐殺せられたる事件ありたるが其の報道は朝鮮の与論を刺戟し民心動搖したるも大事に至らずして熄みたり

次で大正十四年十一月滿洲に君臨したる張作霖の部下郭松齡將軍叛旗を北京に挙げ張軍を圧迫し戰禍逐次東方に及び奉天亦危機に迫りたれば朝鮮軍司令官は日本中央部の命令に基き第二十師

0019

團より歩兵二大隊、砲兵一中隊を基幹とする部隊を十二月十五日奉天に急派せり。郭松齡軍白旗堡に於て吳俊陞軍に潰滅し反乱終熄したれば、派遣部隊は幾何もなく帰還せり。

次で昭和三年五月蔣介石の北伐軍破竹の勢を以て北上し北京政權累卵の危に瀕するや、日本政府は第六師団を濟南に派遣して援北抑南の政策を採れり。朝鮮軍は命令により臨時派遣飛行隊を青島に混成一旅団を滿洲に派遣し翌年原駐地に復歸せり。

昭和五年冬滿洲長春南郊萬宝山附近に於て在留朝鮮人農民が畑地を水田化する爲灌漑用水路を構築したるか翌昭和六年春通水するに及び兩岸の滿洲農民の耕作畑地一帯を濕潤化したることに基因して解満人間に乱斗あり。日本の勢力威十分ならず、繰返へず抗議も張作霖政權を動すに至らず之が爲朝鮮内に於ても反華運動勃発し仁川、鎮南浦に於ては華僑が朝鮮暴民に襲撃せられ流

0020

血の事件発生セリ朝鮮軍は総督に協力シ之を鎮撫する爲朝鮮
にある華僑を保護セリ

七満洲事変

昭和六年九月十八日満洲事変勃發シ関東軍司令官より救援の電報
に接したる朝鮮軍司令官は関東軍が僅に第二師団と独立守備隊
を有するにすぎずして張学良政権三十六萬の大兵に対し余リにも兵
力寡少に苦しむを憂慮シ日本中央の決意確立再延せんか関東軍
が危殆に陥るべきことを恐れ独断を以て混成第三十九旅団(長少將嘉
村達次郎)及び独立飛行隊を満洲に派遣することセリ

部隊は中央の命により一旦安東以南に停車したるも関東軍が吉林
に前進するに及び独断更に出発を命じて奉天に到らしめたり本件
は後中央の認可を得たり
次で中央の命令に依り京城より第二十師団司令部(長中將室兼次)

0021

咸興より混成第三十八旅団(長少將依田四郎)を滿洲に派遣せり
當時の鮮内警備上軍は全兵力の派遣を許せず約半部を警備
の爲に残置せり

別に朝鮮軍は在間島六十萬人の朝鮮人(住民の八割二分)保護
の爲間島派兵を上申したるも許容せられず翌昭和七年四月龍
井村附近暴徒が領事分館焼打を企圖するに及び中央の命令に
基き池田(龍よ)大佐の指揮する間島臨時派遣隊を龍井村に派遣
せり

ハ朝鮮人思想動向の変遷

滿洲事變の發生と其の進展とは朝鮮人の思想動向に著しき変化
を招來せり即ち日本の立場と其の實力を確認し日本信頼感
逐日昂揚せり

軍司令部に於ても李焯中公將、趙重應中將、魚潭中將以下旧

朝鮮軍人にして日本將校となりたるものを部附として勤務せしめたる外民間有能の士を簡拔して關東軍に推挙して活動の途を開き在滿在北支の朝鮮人にも亦温情の手を伸べ之等の保護救済に力を致せり 會々奉天吉林の獄裡に無実の罪に收容せられありたる朝鮮人を關東軍が解放する外在滿洲一百萬朝鮮人を日本同胞として取扱ひ其の能力に定めて或は官公吏となし或は事業面に志を伸展せしめられは嘗ては反日を呼号し弓を日本に引きたる者までも恩義に感じ時勢の推移に順応して親日依日の傾向著しく濃厚となり 昭和十年十月湖南平地金堤を中心とする師団對抗演習(第二回にして第一回は昭和五年京城水原間に行う)に於ては朝鮮人の親日感情親日本軍感情亦格段の躍進を見たり 斯くて朝鮮人の対日感情が好転する一方日本人の朝鮮人觀亦大いに改善接近し兩者の融合美談佳話見るべきものあり思想転向^著増し司法保護事業

0023

亦本格的に成績を向上せり

九、國境守備隊改編

琿春守備隊設置

滿洲國內交通網の整備と其の軍警を以てする匪賊討伐は逐年奏功し鴨綠江及
圖們江岸一帯の治安は著しく改善し守備隊の重要性は輕減し警察官を以てする警
備にて事足るに至れり

他面圖們江岸鮮蘇國境方面を於ては蘇軍の松元と沿海州在住二十萬人の朝鮮人
を強制的に改竄に移住し軍備を鞏固にせる事實とは琿春縣及咸鏡北道に於ける
蘇聯との國境に關心を集中せしめられたり

当時道琿春縣下に配置せる守備隊は全縣が滿洲國內にあるに拘はらず朝鮮
軍司令官の指揮に委ねられたり蓋し閩東軍が多端多事にして東部方面
に關心薄きと在尙島住民の八割が朝鮮人にして朝鮮との交渉多く其の指導
は朝鮮軍に委嘱するを便としたればなり

0024

然るに昭和十一年三月琿春縣長領子に於て蘇領を展望中なりし日本陸軍
將校蘇軍監視兵に狙撃被殺の事件發生せるに鑑み軍司令官中將(后大將)小
磯國昭は鴨綠江國門江岸中鮮滿國境正面に配置したる國境守備隊を琿春
に転用するを適當と認シ中央ヲ許容するところとなれり

然れども永年に亘り國境治安ヲ維持せし守備隊に依存せる朝鮮總督は警察力増
備の必要と其の要員教育の期間守備隊の存置方^々懇請したれば守備隊は二
年に分割して琿春に全兵力を移転し琿春守備隊に改編することとなり昭和十二
年に始まり昭和十四年春之を完成せり

十在鮮軍隊の増強

不羅津要塞司令部、重砲兵聯隊

南滿洲鉄道株式会社が担当して起工したる不羅津港の築港、港灣設備造成
作業は取敢えず年間三百萬噸吞吐の不凍港を目途として建設の歩を進め
たれば之が防衛就中防空の必要上不羅津要塞司令部を昭和十二年に、不羅津

重砲兵聯隊を昭和十五年に開設せり

(註 海軍は四世津湾入口の梨津に羅津防隊を設置せり)

只第三飛行団司令部及び飛行一戦隊

野戦重砲兵第十五聯隊、高射砲一聯隊

何れも昭和十二年、十三年に会寧に新設し北端の警備を嚴ならしめたり

北支事変に派兵

昭和三年七月七日河北省蘆溝橋に於て日華兵衝突に端を發し所謂北支事変の風雲急を告ぐるや朝鮮軍司令官大將小磯國昭は事態の重大性に鑑み朝鮮より第三師團を北支に急派の用意にある旨を電申し中央の命に基き第三師團長中將川岸文三郎は七月十日動員下令鉄路輸送に依り天津に出発し参戦せり

朝鮮軍人志願兵制度創始

朝鮮軍司令官大將小磯國昭は朝鮮人と日本國陸軍に採用する件につき慎重研究するところありたるが總督南次郎亦朝鮮人と志願兵となしうる制度創始に關し熱心なる希望を抱き兩者の間極秘裡に討査研究を重ねつゝありしが昭和十二年春以来内部的準備を進めたり折柄北支に日華文戦し第三師團出動するに及び此機を逸せず朝鮮人の日本化を促進するを適當と認め一面軍事思想の普及昇揚を圖りたるところ數千年に亘る朝鮮民族の反漢民族思想は數千年被壓迫の岩窟を破り迸出し日本軍の建勝に依りて更

0027

に柏市せうろあり朝鮮人の軍国熱は逐日昇騰セリ

特に日本より北支へ出動する陸軍―空軍―諸隊の大部分が朝鮮半島を縦断するに由したるため朝鮮人と日本軍隊とは親炙の機多く且軍隊に附随して北支に進出する朝鮮人亦少からず歓迎の聲は鉄路を埋め民族交流の佳話は感激の端となり朝鮮人の親日依日奉仕精神を聚り立てり之がため共産主義者民族主義者は殆んど市に遁息し轉向者絶せり

於此民族主義者尹致昊 天道教 崔麟 等巨頭を始め朝鮮神宮前に戦捷祈願式典を催し各道各邑而亦之に随ひり

朝鮮總督は全鮮五月年聯盟を結成し之を京城運動場に集合して大会を催さしめたるが大衆の屋外集會は日韓併合以來今回を以て嚆矢とす

會、第三師団歩兵大隊長少佐金錫源(金山錫源)は北支に従軍して板碑の殊勲を建て其の他の朝鮮人出身將校相踵で立勲の報傳わるや朝鮮青年の好戰的気分は頓に昂揚セリ

この情勢下に於て朝鮮人志願兵問題は急速に進展し十二年五月二十四日

本政府は閣議決定を以て朝鮮人特別志願兵制を創始することとせり

昭和十三年一月十五日内閣總理大臣近衛文麿代理拓務大臣大谷尊由及朝鮮
總督南次郎より上奏し翌年議会の協賛を経て公布したる朝鮮人特別志願
兵條例に基き別表の如く志願兵を採用し之を朝鮮總督府志願兵訓練
所(当初は一ヶ所後ニヶ所となる)に收容して順致訓練を加えたる後ニ小を朝
鮮常置の日本軍部隊に入隊せしむ

0029

朝鮮人徴兵制度設定

太平洋戦争の進展に伴い朝鮮人の積極的従軍意欲逐次益々顕し日本人亦朝鮮人三、五百万人が兵役を以て戦力増強に寄與貢獻せんことを待望する聲朝鮮野に擧れり幸にして朝鮮人特別志願兵制度三年間実績は日

本軍人に伍して遜色なき成果を示し特別志願兵訓練所に於ける予備訓練亦極めり順調に追々訓練所卒業者の郷土に歸る影響甚しき一面に氣に應ずとする學校訓練と郷土の青年訓練は共に志願兵の備訓練を自途とするに至り朝鮮人の日本人と運命共同觀は著しく躍動を始め今や志願兵より一般徴兵への飛躍と不自然なくして受け容れらるべき情勢を誘致せりここに於て日本政府は朝鮮人徴兵制度を創設し昭和八年八月之を公布施行し昭和十九年四月以降この徴兵検査を実施せり徴兵による徴兵年次及び人員別表の如し

0030

張鼓峯事件

昭和十三年七月日本軍は漢口攻略作戦に其全力を集中しその準備輸送に専念せしむるに突如として圖滿江下流慶興對岸水流峯東方の張鼓峯に於て滿洲

國境守備の日本軍哨所をソ連兵が襲撃し之を占領せる事件發生せり

同地方は曾て愛媛條約に於て國境線を決定せしところなるも彼我の條約解釋に意見の相異あり紛争の因をなせり

第十九師團(長中將尾高龜藏)は歩兵第六連隊を慶興正面に爾余の部隊を雄基、四合地区に集結し萬一の事態に備えたり一時ソ連兵の後退より小康を得たるの感ありしかソ連軍部隊兩度の來襲に端を發し張鼓峯上帶は彼我の修羅場と化せり朝鮮軍司令官(当初小磯國昭)後大府中村孝太郎は事件の不拡大と局地的解決を主とする日本政府の方針に基き極力特に參謀長少將北野憲造を現地に派遣し第十九師團を指導して事態の拡大を防止せり

ソ連は優勢なる空軍を以て猛烈なる爆撃を加え來り戰車群其間に活躍し第十九師團は全力を傾注して防戦大に努めたり然れども當時朝鮮軍は予備兵

0031

礮彈藥の貯蔵なく之等の補給は東京に仰かざるべからず。然るにこの東京は漢江作戦に没頭して余力なく終に臨海軍に依存せざるを得ず。於此関東軍は一ヶ師団を訓戒に前進して萬一の奔暴に供え且其の保有する彈藥を第九師團に補給して其戦斗に寄與貢獻せり。爾後彼我國境線を思ひし相對峙したるが九月十一日モスクワに於て停戦協定成立したるは第九師團は鉞を収めて原駐地羅南、会寧及咸興に復歸せり。

師團が圖滿江を渡りたる後大雨北鮮を襲い圖們江の汎濫は兩岸に溢れ田畑の被害甚大なるものあり。圖們江上交通は暫時停止せり斯くて圖們江北岸水流峯張鼓峯地区は赤旗樹立せられ向奪還は武力行使の外策なきも兵力に許さるること適當なるを爲し爾後永くノ連の有に歸せり。

十五張鼓峯事件余波

以滿ノ国境守備は関東軍之を担当するを至当と認め間島省彈倉縣国境守備を朝鮮軍より関東軍に移管し関東軍部隊は朝鮮内に於て訓戒慶興間に駐

屯することゝなり

(註慶興含まず) 以東には朝鮮軍の守備部隊を配置することを如道

四 事件を自視せる朝鮮地辺の住民は一部避難したるものあるも慶興部外に出でたるもの稀にして反つて極爆を目して彈藥糧食の前線輸送に積極的
に協力し日鮮融和盛大の好果を収めたり

四 事件は一時日本政府及び軍当局に甚大の衝撃を與へたるか短時日間に
終結したるとし連か積極的進撃の企圖なきこと判明したるため、漢口作戦
の準備及び之が実施上当局者に一大安心感を與へたるは奮闘可かざる事
實と謂うべし

四 一般朝鮮人は一時動搖の色あり流中上方的なるし連空軍の急襲と之によ
る山形の変更に全鮮に宣傳せられ恐ろ感念を植付けたりと雖も幸にして
国境を堅持したる事実と速なる停戦協定の成立とはし連不侵略の安堵
感を得せしむることとなり施政上の變慮を拂拭せり

夫太平洋戦争発生前の状況

昭和十四年十五年は概ね平靜に推移し特日本軍の華中作戦の進展と滿洲
国創業の業績月に日下舉り朝鮮産業經濟亦其余慶に潤い志願兵予
備訓練と青年團体の訓練等相依り相濟して總督政治は順調に進展し
軍の威容亦重きを加えたり

昭和十六年七月臨時演習なる秘匿名稱の下に朝鮮軍の充實を圖り第十九師團
第二十師團は勳員部隊となり各留守師團と同居することとなり羅津、元山
（永興灣）要塞は勳員して元山要塞と改稱し鎮海及麗水の四要塞は戦備
下令せし小大砲は其配置に就き守備部隊に配屬せし小砲は戦備準備を完了せり
斯くして昭和十六年三月八日八百十洋戦争に入り朝鮮軍は内に警備を嚴にする
と共に總督の施政に協力して朝鮮人の善導に努め物資の補給添たるの價值
と實質の向き促進せり

十七部隊編成及出征

（一）第三師團（長中將青木重誠）昭和十八年一月京城に於て勳員を完結し金山を各
て「ニギギニア」に出征せしむ

(三) 昭和八年八月第九師團の編成を改正して羅南に在らしめ別に第百一聯隊を新設して慶興下流圖們江右岸地との防禦陣地と守備せしむ

(四) 昭和八年八月第三師團長中將小林淺三郎と平塚に新設す

(五) 昭和九年三月第九師團長中將竹原三郎を京城に於て編成し六月釜山港よりピルミに向い出征せしむ

(六) 朝鮮軍司令部は昭和九年五月動員し戦時部隊となる

(七) 昭和九年五月在平塚第三師團の動員下令せし師團長は中將西角孝永新任に

着任し前在中林淺三郎は東京防衛參謀長となるす且此律濱に向い釜山港を出發せり

(八) 昭和九年五月在羅南第九師團師團長中將尾崎義登(登) 動員せしむ

二月此律濱に向い釜山港を出發せり師團は海上輸送妨害を受け其主力は台湾に上陸し台湾軍に編入せらるなり

(九) 昭和九年二月十七日第十七方面軍及び朝鮮軍管区新設せし朝鮮軍司令部

日之か基幹となりて奔辰解消し第廿方面軍は野戦部隊として朝鮮
の防衛を担当し朝鮮軍管区司令部は管区諸部隊を統率して補充教
育、經理、衛生及嚮成を担当す祖し兩司令部司令官參謀長は兩者兼
任とし參謀副長以下天々専任としはるか司令部廢舎と共用したるは兩者
は内実上公ては不に二つの活動を終始せり

(九)朝鮮に部隊増強

戦局の進展就中太平洋諸島の失陥に伴ひ朝鮮にも米軍の空襲及其
上陸の危険性増大したるは大本營は逐次第七方面軍に部隊を増強
せり其主なるもの如し

昭和三十年三月、元の如く新設す

第廿九師團(長中將太田貞昌) 羅南

第九六師團(長中將飯沼 守) 濟州島

昭和三十年四月元の如く新設せり

第五八軍司令部(司令官中將水澤元比重) 濟州島

第百五十師団(長中將三島義一郎)

高廠

第百六十師団(長中將山脇正男)

裡里

師団司令部

羅南(中將西脇宗吉) 平康(中將竹下義晴) 京城(中將橋)

康(大印) 中將村治敏男) 光州(中將下野一雀)

昭和二十年五月左記諸部隊増加せらる

独立混成第百二十七旅団(長少將坂井武) 新設の上洛州島に

第百二十一師団(長柳川真一) 滿洲東寧より大邱に

第百二十二師団(長中將若崎次男) 滿洲より洛州島に

第百二十三師団(長中將正井義人) 滿洲哈爾濱より洛州島に

戦車隊(蒙疆より) 迫撃砲大隊(北支より) 京城に

0037